



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成29年6月30日

校長 福田 俊彦

それぞれを輝かせる・・・夢、希望

校長 福田 俊彦

校庭を彩る緑。同じ樹木でもその色合いは少しずつ違って見えます。その違いが何とも言えない風情を醸し出しています。6月29日（木）から出かける武石移動教室でも、自然の贈り物として観ることができるでしょう。子供たちが自然だからこそというものを感じられる2泊3日にしてきます。

さて、南町小学校に、二人の大学生が来ました。小学校の教員をめざすための教育実習です。教員をめざす理由はそれぞれですが、そこには理由を支える強い思いを感じることができました。今、教員として職務に携わっている一人一人にも、そのような時がありました。教員になるという夢に向かって、心を真っ直ぐに向けていたことを思い出します。人は「夢」に向かっていく時こそ、輝いているように思えます。辛いことも、苦しいことも、夢が自分を支えるエネルギーとなるからでしょう。

子供に聞きました。「〇〇さんの夢は、何ですか。」子供が答えました。「みんなの役に立てる人になりたい。」具体的なことは決まっています。なぜ、そのように思ったのか聞いてみました。世界で困っている人を助けている人を見て思ったそうです。実は、このように答えた子供が何人かいたのです。家族の仕事に取り組む姿を見て。最近読んだ本に登場する人の生き方に触れて。話を聞いて。これらは、昨年度、この南町小学校を卒業した子供との話です。

先日、代表委員会の6年生の子供が訪ねてきました。今年度の「思いやり宣言」を届けに来たのです。昨年度、先輩が作り上げた「思いやり宣言」をもとに、今年度、よりよい南町小学校を創るための「自分が心掛けること」「相手に対する思い」「みんなですること」を私に6年生が説明しました。学校のことを考え、みんなのことを考える最高学年としての姿、そこにもよりよい学校を創ろうとする夢、希望を感じることができました。

そこで、この子供たちにも聞いてみました。「〇〇さんの夢は何ですか。」子供たちは、今の社会の現状に触れながら、自分の経験に触れながら「人の役に立つことをしたい。」「人に喜びを届けることをしたい。」「人の助けになる仕事をしたい。」と話しました。今の最上級生も自分の生きている社会を見つめて夢を語っています。その社会の現状を何とか変えていきたいという思いを抱えています。そして、自分ができることは何かを見付けようとしています。子供たちの夢は、私たち大人の夢でもあるのです。子供たちとの関わりがもてることに感謝です。子供たちの存在はすごいんです。

今年度も4分の1が過ぎました。将来を見据え、自分の夢、希望に向かって、日々の生活を築き上げている子供たちを、みんなの子供としてはぐくんでいくことへのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。